

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日: 令和6年 3月 1日

公表: 令和6年 3月 6日

事業所名 あみぶらす3

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		囲いを利用して区切るなどしている。	部屋が広すぎるため、落ち着けない子がいる。室内に小部屋をいくつか設置できるとよい。
	2	職員の配置数は適切である	8		少人数活動のチームを作っている。	欲を言えばもう少しパート職員を増やしたいが、近年採用が非常に困難になっている。給与の見直しをしたばかりであるが、再度検討していきたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	2	・二階に位置するため、階段の昇降が必須。 ・エレベーターがほしい。	賃貸物件のため、エレベーターの設置は勝手にはできません。また許可が出たとしても、建築基準法上の問題やコスト上の問題など課題が多く、今のところ現実的ではありません。2階はフロアはバリアフリーですので、当面は現状のままです。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8			毎日のショートミーティングで確認しています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8			行っています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8			ホームページで公開しています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8			外部評価は行っていません。保護者向け評価表は第三者による外部評価とは異なります。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		定期的に参加しています。	研修情報の提供、内容によっては受講料の補助など行っていますので、興味のある方は積極的に参加をお願いします。
適切な支援の	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8			アセスメントについては、日々のミーティング等でやっているものの、契約時に行ったアセスメント以降、決まった書面に残せていません。アセスメント結果が次の支援につながりやすいよう、アセスメントシートを作成し、実のある記録作成をしていきます。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8			主には、作業療法士による感覚分析のアセスメントツールを使用しています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		正社員が中心となり、ベースは担当が作り、相談しつつ行っています。	担当者が企画し、児童発達支援管理責任者、作業療法士の意見を踏まえ調整を図りながら決定しています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		バランスよく訓練できるよう、曜日ごとにプログラムを変え、内容も毎月変更している。	支援目的の達成の観点からは、一定期間やり続けることも重要ですが、児童たちが飽きてしまうと効果も薄れてしまうので、児童が意欲的に参加できるように固定しすぎない配慮は行っています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8			平日は集団活動が中心で、時間的に余裕がある場合に個別活動に取り組んでいますが、休日、長期休暇は集団活動、個別活動の両方に取り組んでいます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	8			上記の通りです。

提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		毎日ショートミーティングを実施している。	毎日のショートミーティングで確認しています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		送迎後と翌朝行っています。	支援終了後は送迎業務などがあり、パート社員など時間的な制限がある方は短時間の残業後帰宅してしまうため、限られたメンバーで行っています。特に共有したほうが良い内容は、翌日のミーティングで発表しています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8			現在の日報記録は紙ベースで情報量も少ない。ITツールを導入し、業務効率化を図り、その分情報量を増加し、共有化することで検証、改善につなげていきたいと検討しています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8			支援計画作成時にはモニタリング評価は行っているものの、記録のフォーマットが定まっていないため記録にないケースもある。フォーマットを決めて記録に残るようにしていきます。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	8		曜日ごとに入れ替えて行っている。	自立支援を中心とした療育活動、土曜日を中心とした余暇活動、適宜創作活動を行っています。地域交流は、コロナ禍の影響もあり、あまりできていません。今後は地域交流活動も復活させていく予定です。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		緊急時は保護者に電話連絡している。	サービス担当者会議の開催自体がありません。相談支援事業所からの呼びかけを待つことが多いですが、必要であれば、当所からも開催の呼びかけを行っていきたく考えています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8			学校からの下校時刻の発信が遅いのが悩みとなっています。学校の事情もあるかと思うので、特に要望は出していますが、保護者様への通知が遅れてしまう結果になってしまうため、学校との連携を強めていけたらよいと感じています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	8			現状では主治医等と連絡を取る必要性がありませんが、万一に備え、連絡先は契約時に確認をしています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7	1		特に連携を図れていません。今後は事前情報として、連携強化に取り組んでいきたいと考えています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	1	該当者なし	特になし
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8			様々な視点から多くの意見を聞くことは重要だと思いますので、積極的に活用していきたいと思っています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7	1	長期休みに児童館や、近くの公園で利用者以外の子どもも混ざって遊ぶこともある。	コロナ禍の影響から交流を控えていますが、今後機会を増やしていきたいと思っています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7	1		考え方や価値観の違いを感じ、ほとんど参加せずに来てしまいました。時間的な問題もありますが、少しずつ参加していけたらと考えています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		送迎時に意見交換を行っている。	送迎時の限られた時間ですが、毎日の積み重ねにより、相互理解できているケースが多いと感じています。今後は、家庭訪問等しっかりした時間を設けてより深い情報共有を図っていく予定です。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	8		時々、電話でお話させていただいています。	ペアレントトレーニングの重要性は感じているものの、考え方の違いから衝突してしまうことが過去にあったため、取組みにくい問題ではある。しかし、質問や相談をいただいた場合や、話を切り出せる場面では、成功事例などを通じて支援させていただいています。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8			契約時には、支援方針も含めて理解していただけるように時間をとっていただきしっかりと説明しています。
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8			29ペアレント・トレーニングの項と同様です。	

保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	3		コロナ禍の影響から開催を控えていましたが、秋の運動会の観覧を再開しました。支援風景の参観及び保護者の交流会等、開催を再開させていく予定です。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8			苦情対応マニュアルは作成しておりますが、幸いにも苦情らしい苦情をいただいておりません。保護者の皆様のご理解、ご協力に感謝しております。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8			業務効率化のためITツールの導入を検討していますが、その機能に保護者様への通知機能が含まれるかもしれません。現在の通知方法からシステムを通じての案内に変更する可能性があります。
	35	個人情報に十分注意している	8			「十分」がどこまでなのか難しいところです。自治体や大企業がお金をかけて対策しても情報流出事件は絶えません。お金をかけて対策するよりも、一人一人の意識が重要かと思っておりますので、その点の教育は行っていきたいと思います。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8			特に意識していることはありませんが、子供はうそをついたり、説明がうまくできないことも多いので、意図を理解するように聞きかたを変えて質問するなどしています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	4		地域住民も巻き込んだイベント企画もしていきたいと考えていますが、やるべきことが多すぎてなかなか具体化できていないのが現状です。なるべく早目の開催を目指したいと思います。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8			マニュアル類が膨大にあり、人員異動等により内容の修正箇所も多くなっております。またこれを機に全面的な見直しも行っていきます。時間がかかって申し訳ありませんが、順次改訂中ですので、でき次第皆様に配布します。
非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8			実施の内容が保護者様へ伝わっていないケースが多いようなので、実施の周知をより行っていきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		年に数回研修を行っている。	研修計画に沿って、虐待に関する意識を高めていきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8			想定外で起こることについて、どのように対処するべきか現場で困惑する場面が想像できる。例えば子供が道路に飛び出そうとした場面などで、支援計画書に書いてないからという理由で子供をおさえつけなかったなど。そのようなことを言い出せばきりがなくなってしまう。現場で最優先すべきことが確実にできるような制度設計を求めます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8			医師の指示書は提供してもらっていない子がほとんどです。食物アレルギーのある子は、保護者に提供依頼してきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		発生時はしっかり作成し、共有している。	細かな点もヒヤリハットとして挙げています。事例を挙げすぎたためほとんどの対策がないがしろになってしまっています。守れない量の対策を考えても仕方がないので、実現可能性を重視して取り組んでいきたいと思います。